

おぢばで教会でまぶしい汗



7月30日 こどもおぢばがえり



7月21日 母親講座



7月28日 おやさとパレード参加



8月4日 夏のこども会

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙 (306)

こどもおぢばがえりに皆様のご尽力ありがとうございました。来年からはパレードが違う形に変更されること、また来年から開催期間が二日短縮されることなどお知らせを頂いています。縦の伝道、育成はなんとして

も熱心に、忙しいお父さんお母さんが時間を作って手間ひまかける必要があります。子どもや孫とは共に遊び、共に教会へ、おぢばへと歩むことが一番良いと思います。難しいことを言うよりは一緒にひのきしんを楽しむことが心に残ると思います。今日(8月4日)は少年夏

の子ども会があり子どもたちが親と共に集まってくれました。笑顔と明るい声に心が和みます。現在、教職舎陸屋根の防水工事、続いて屋根軒先の修理、屋根塗装、集合煙突修理、全般の壁補修、壁塗装工事が続いています。塗装は足場組み、ペンキ塗りなど本職の人の指導によつ

て、ひのきしんで施工することとしています。お陰で現在まで進捗したこと御礼申し上げます。しかしながら、こどもおぢばがえりの期間もあり人手の足りない時には本職にお願いする日が多くなっています。暑い日に懸命につとめて下さっている皆様には頭が下がります。

「おたすけはすぐに!」

このところ経験したことですが、おたすけは相手さんに何を話すか、自分がどう思案するかなど考えることより、とにかく直ぐに取り次がせてもらうものだと思えました。思案ばかりして時を逃すと残念しか残りません。

6月のこと私はある信者さんの病気が重いと聞き、かけつけが夜遅く、病院には行けず就寝。しかし翌朝5時頃、患者さんが急変し意識不明との病院からの知らせです。家族も集まっているという。しまった!ここまで来たのに会えないのか。夕べ遅くになんとしてでも行く

べきだった!しかし病室も何も知らないなどの思いがかけめぐりながら駆けつけ、一心におさづけを取り次いだのです。すると間もなく意識が回復し手を握り返してくれたのです。家族は「ええ!」と驚き顔です。翌日は声を振り絞って枕元の息子さんに言いました。「いいか、お前は会長を親と思え」と。

その後、意識の混濁など一進一退をくり返しながら回復に向かっています。ありがたいことです。何を伝えたわけでもありません。ただ駆けつけてお願いさせてもらっただけです。このことで私は教わりました。おたすけは結果を案じることなくとにかくすぐにさせてもらうこと。と肝に銘じました。

「陽気を読みましよう」

教内の読み物は、自分がよく読み、信者さんにも読んでもらえるよう勧めると不思議なご守護があります。

陽気に限らず、天理時報はおぢばからの声。たすかる記事が満載です。読んだらたすかるなんてものは世間にはめったにありません。私は「陽気」という月刊誌を少しだけ信者さんに配っていますが、内容が濃くておたすけのすごい話が多いので配るのをためらうこともありま

今後の予定

9月中 にをいがけ強調月

9月22日 ひきよせ大会チャリティバザー

28〜30日 全教一斉にをいがけデー

した。しかし、どこでたすけが待っているが分かりません。私は、病室に「陽気」を置きました。付き添う誰かが読んでくれるかもしれないと思って。すると付き添っている家族がふと読んだ内容がピツタリ心の悩みに合致し、不思議を感じて何度も読み返したとのこと。教内の本は皆さんの祈りが込められています。ぜひ皆さんに読んでもらいたいと思います。

(8月4日記)

七月月次祭の様

雨が少なく、からりとした日の続いた七月。月次祭の15日も雲一つない青天の中、迎える夏に感謝するように大勢の参拝者が大教会に集った。

開扉献饌のち祭文奏上。続いて座りづとめ・十二下りが勤められた。籠った熱気を逃がすように開け放たれた神殿からは、力強い地歌と鳴物の音が、外にまで響き渡った。

講話にはまず堀江吉秋・石狩川分教会長が立ち「先日は旭川



に出るところまで話しました。旭川には母と弟と三人で出てきました。

頼った先は母の弟の家で、私は若年ながら馬車馬のように働かされていました。辛い毎日でしたが、病弱な母と幼い弟を見捨てるのが出来ず、逃げることも死ぬこともできない状況でした。笑う事も許されず、次第に私の顔からは笑顔が消え、言葉が発する事もなくなっていました。馬小屋の隣で生活する毎日、臭いで食事をもともに喉を通らないような状況でした。

隣の同級生が私のお目付け役のように、ある事ない事を吹聴し、家でも学校でも私の居場所はなくなくなっていきました。彼は私が柔道部の学校代表になった事が気に入らなかつたのか、告げ口をして私を柔道部から追出そうとしましたが、周りの人は私の状況をよくわかっており、部を追い出そうとはせず、試合に勝つたびにノートや鉛筆をくれました。

学校では忘れられない先生との出会いがありました。その先生は私の事を気にかけて、朗読の順番を飛ばしたり、テストも『お前は分かっているから』と言って白紙でも通してくれました。先生に『修学旅行には行け

ない』と言うと、旅費と少しの小遣いをくれ『必ず行くんだよ』と言ってくれ、私も修学旅行に参加する事が出来ました。そんな先生が転勤する事になり、最後に私に『人生は色々な事がある。どんなに辛くても、自分に負けるなよ』と声を掛けてくれました。先生に会ったのはそれが最後でしたが、今でも心に残っている言葉です。

そんな頃、天理教の布教師が私の母を熱心に訪ねるようになりました。母は天理教の話聞くようになり、その後二人の兄達もお道に繋がるようになりました。私も初めて教会へ参拝へ行き、その時に神様に『私を盲腸にして下さい』とお願ひしました。理解しがたいと思われるかもしれませんが、この時の私は本気でお願いしていました。一年後、願ひ通りの盲腸になつた私は、神様について考えるようになり、後の信仰に繋がるきっかけとなつたのです」と涙ながらに語った。

次に堀川洋子・峰延分教会長夫人が壇上に上がり「私の祖母は紀州の地で生まれました。教祖ご在世の時であり、山を越えた先にはをびやの生き神様がいます、と聞かされていたそうです。のちに信仰についた祖母は九十



歳で修養科へ入り、兵神の大教会誌に写真付きで紹介されています。

九州の実家の父は、陸軍士官学校を出た軍人でした。満州事変の折、父の戦死の報が届きました。しかし母は『息だけ欲しい』と神様にお願ひしました。神祀りの為に教会の会長が社

を背負って家に来る後ろから、父が生きている事を伝える電報が届きました。後年、当時の様子を『一兵卒が銃弾で倒れている私を、ここで死なせる訳にはいかない、と担いでくれなかつたら、本当に死んでいた。その恩をいつか返さなければ』と話していました。

19歳の時『天理に遊びに行きたい』と思い、おちばへ帰りました。神殿で参拝していた時にふと父の『恩返しを』という言葉葉を思い出しました。父を助けて下さった神様はどんな神様なのか、と知りたくなり、そのまま修養科を志願しました。現在の大会長さんは当時天大生、

奥様は一期上の修養科生、教養掛には藤崎忠男先生がいました。後に夕張の部内教会へ嫁ぐことになる事を暗示するかのような、不思議な出会いでした。

銃弾を受けた父は足が不自由になり、どんな手を尽くしても立つことが出来ませんでした。『何とか立てるように』と願った祖母は、押し入れに神様を祀っていた教会に、六人が並んでおつとめが勤められるよう、神殿のお供えをしました。すると父は立つて歩けるご守護を頂いたのです。

母は『お金はお足だから、お繋ぎ、お尽くしをさせて頂くだ』と、教会にひのきしんに通い、会長のおちば帰りの費用を出したりと、一生懸命務めていました。私が教会へ嫁いで初めて母の通り方の意味が分かりました。命のご守護を頂いた両親の信仰心はいつまでも固く、ご守護から60年経った教会の普請の際に、祖母と同じく神殿の普請金をお供えしたのです。

私も夕張に嫁いで50年が経とうとしています。その間いい出会いが沢山あり、多くの人に助けられて通って参りました。これからも19歳の時に思った『恩返し』の心を忘れず、何か自分出来ることはないかと考えな

ひきよせ

(3)

がら、明るく通っていきたくて思いますが」と話した。

大教会長は「ここ三年間、石川県での陽気ぐらし講座に講師としています。担当の高瀬先生の教会は五年ほど前に火災に遭い、後継者のお嫁さんと子ども、そしてお嫁さんの母親が出直されました。非常に気の毒な事で、知り合いにその事を聞かれても、返答に窮してしまっ程でした。

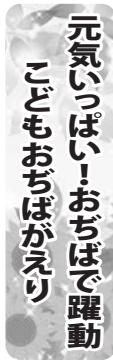
しかし次の日には、その人が『天理教って大したものだね』と言ってきたのです。連日の報道の中で、この教会が、行き場のない人や困っている人を一手に引き受けて、一緒に暮らしていた、という事が分かってきました。そうした天理教の活動に対して、感心の声広がっていったんです。

高瀬先生には直接お会いし、当時のお話を聞きました。当時マスコミが挙って、市内の他の教会までもインタビュアーに来たらしいです。ある女性の会長さんがこう言ったそうです。『気の毒な事ですが、あの位で倒れる教会ではありません。2年、3年後きつと立派に立ち上がります。天理教の底力を見て下さい』。ゴシップになるような話を期待していた記者は驚いたそうです。会長自身も辛いが、嫁子ども

を失くした息子はもつと辛い。帰ってから部屋に閉じこもった息子を心配していたが、4日目には部屋から出て、黙ってハッピを着て路傍講演に行ったそうです。何とも信じられない事です。

若い頃はやんちゃもしていた先生とのことです。ある日腰痛が悪化し立てなくなりました。女性の先生が『三十分のおたすけ』というのをして、ご守護を頂いたら一生おたすけをして歩く、という事を誓った。すると三十分経ったら痛みが無くなりました。それから『恩返し』の気持ちで生涯通っておられるんですね。節を乗り越える力も、そのような通り方の中で培われていくのでしょうかね」と話された。

祭典後には少年会の例会が開かれ、間近に迫ったこともおちばがえりの団参に向けて、綿密な準備がなされていた。



夕張団の今年のこともおちばがえりは、7月26日に大教会に集合し、一泊したのち、飛行機で一路関西へ。ちょうど台風が発生していた事もあり、旅程への影響も心配されたが、ほぼ予定通りに進んで、無事27日の昼



間に詰所に到着。

27日夜にはおやさとパレードを参観し、翌28日には夕張団鼓笛隊としておやさとパレードに出演。今年が最後の開催との話もあるパレードに、少しでも多くの子どもを、と普段練習に來れない子もモンキータンバリンを持って参加した。昼と見まちがう程のライトに照らされて、大勢の観客の支援を一身に受けて行進した子ども達。「楽しかった」「また出たい」といった喜びの声が上がっていた。翌29日には神殿前にてお供え演奏。朝から体力を奪うようなジリジリと照り付ける日差しの中、夕張の子ども達は堂々と神前で「大好きなおちばへ」を披露した。

例年にも増して暑い日の続くおちばであったが、そんな中でも子ども達は元気いっぱい！忍者村では水鉄砲を持って忍者と対峙し、こども横丁では昔の遊

びに夢中になった。カレー食堂では何杯もおかわりし、おとめまなび教室では講師の先生の言う通り、真剣に手を振っていた。そしてお楽しみのお話所「ふれあい広場」では何種類も用意された屋台に舌鼓を打って、たくさんさんのゲームに時間を忘れて熱中した。

5日間のおちば滞在を終えて、一行は大阪・枚方へ。関西最大級のテーマパーク、ひらかたパークへと向かった。ここでも子ども達の勢いは留まる事を知らず、あつちの遊具、こつちのアトラクションと、付いて回るスタツフが音を上げる程、目いっぱい遊園地を満喫した。帰りは新日本海フェリー。スタツフ一人ひとりが考えたゲーム大会に歓声を上げ、この期間



を思い返すようにみんなで感想文を書いたりして過ごした。1日夜、大教会に到着し、楽しかった今年の団参が終了した。今年の夕張団本隊は現地参加含め少年会員14名、育成会員23名、計37名の参加となった。子ども達と直接関わったスタツフはもちろんのこと、食事やお風呂など見えない部分で働いて下さった方があっての旅であった、と実感したおちばがえりであった。携わった方々に、ここに改めて感謝致します。ありがとうございました！

忘れられない夏になる、来年も是非、夕張団のこともおちばがえりに！ ※道の子作品展へ夕張から少年会総会で募集した作品など10作品を送付し、南右2棟に展示されました。来年も作品を作っておちばへ帰ろう！



猛暑の中、流しラーメン！ 夏のこども会

8月4日、連日30度超え、熱帯夜が続いているこの日、大教会にて少年会が『夏のこども会』を開いた。こどもおぢばがえりに参加した子ども、できなかった子どもも集まり大教会長は「たくさんの子供達が来てくれてありがとう。みんなが学び、そして楽しいことをして、いい夏の思い出を作ってください」との挨拶をはじめに、ミニゲームやパネルシアター、スイカ割の後、昼食となった。焼鳥の煙が上がり、おにぎりやきゅうり漬けの他に、流しラーメンの立派な桶が作られ、ワーワーとこぞって麺をすくい上げ食べた。その後子供達は自ら作成した忍者服に着替え、足場を組んで作られた夕張城からスタッフの水鉄砲の雨に応戦し水浸しになりながら笑顔で景



パネルシアター



夕張城



流しラーメン

品をゲットした。短い夏の暑さを満喫した一日だった。少年会員31名、育成会員34名、計65名が参加した。

初めてのおぢば帰り

藤崎 瑞希 (旭都)

小学・中学でもおぢばがえりが出来なくて、高校三年で初参加、初席を運ぶ、こどもおぢばがえりに参加するとう、いくつものステージクリアが待っていて、楽しみと、ドキドキ感の中、7月24日出発した。

それが、25日の朝から虫刺されとの戦いになった。おぢばの蚊は、いつまでもかゆいし、腫

れる。26日の月次祭参拝の時は、10か所以上刺された右足が一番かゆくて、とうとう会長さんにおさづけをしてもらった。

別席はあまり分からず、困っていたら漫画「教祖物語」を見せてくれ、やっとおやさまが形になって分かるようになった。

ハマって三巻まで読んだ。どうだったと会長さんが聞くので「百聞は一見に如かず」と言ったら、目を丸くして驚いていた。

五席まで運んだけど、まだ分からないことがいっぱい。美奈ちゃんと奈々ちゃんも行った「ふれあい広場」のボールゲームや射的は楽しい思い出になった。

会長さんが案内してくれた「天理参考館」はすごい博物館で、歩いて歩いて疲れた、でもいっぱい本物が見れた。次回のおぢばがえりがいつになるかわからないが、楽しみだ。

婦人会 母親講座開催

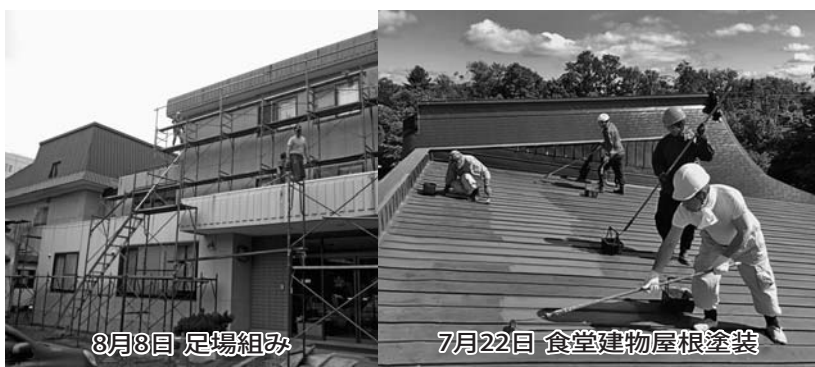
7月21日、午前は支部長と担当者よりお話し、昼食後は2班に分かれてすごろくトークの時間

がもたれ、話に花が咲きゴールすることなくお時間となった。参加者18名子供14名。(1P写真掲載)

教職舎壁修繕工事進行報告

7月16日より食堂建物の市立

病院側から(足場組、集合煙突修理、屋根と壁の修繕塗装)スタート。8月8日現在、利根別川面までの修繕塗装が完了。この日、久々の雨中作業で、事務所正面玄関まで足場が組まれている。



8月8日 足場組み

7月22日 食堂建物屋根塗装

庶務部		7月	
▽初席	藤崎 瑞希(旭都)	7・25	
▽をびや	2件		
▽ひのきしん			
・詰所			
矢野 明子(富陽)		7・7	
矢野 宏信(富陽)		7・21	

山根ふじ(善進道)	7・28	8・5
【こどもおぢばがえり】		
・婦人会 食堂		
・富山真理子(栗山)	7・26	30
・高橋多江子(祝梅)	7・26	30
・青年会		
・藤田 大和(札美)	7・26	29
・少年会 おてふり教室		
・藤田 豊(幌都)	7・26	29
・少年会 おやさとやかた講話		
・高橋太志(祝梅)	7・30	8・1
・詰所		
・岩佐善昭(志加ノ谷)	7・24	8・1
・富山 知一(栗山)	7・26	29

大教会日誌抄 7月	
1日	たすけ推進会議
3日	教職舎壁修繕工事下見
6日	鼓笛練習 7日
8日	ひきよせ編集
9日	足場運搬
11日	会長、東京へ
13日	会長、金沢へ
14日	祭典準備
15日	月例会議
16日	月次祭
19日	足場組み(教職舎壁修繕開始)
20日	婦人会女鳴物勉強会
23日	第6回こども食堂
23日	夏のこども会準備
23日	こどもおぢばがえり準備
23日	会長、おぢばへ
24日	会長、本部神殿当番
26日	会長夫人、おぢばへ
26日	こどもおぢばがえり夕張団
26日	集合 翌27日出発 8・1
28日	こどもおぢばがえり開始 8・4
28日	会長夫人、帰会
31日	夏のこども会準備
31日	会長、帰会